

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要】

事業所番号	1292500020		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流		
所在地	千葉県流山市古間木313-21		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	平成31年2月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】

クララ清流は 1. 寝たきりにさせない 2. メリハリをつけた生活リズムの継続 3. 持っておられる機能を活かしてできることはご自分で合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は現オーナーが開設して13年目となる1ユニットのホームである。設立時からのオゾンミストの空気清浄器は健在である。毎朝の窓開け、掃除が日課となっており清潔感があふれている。レクリエーションには運動を積極的に取り入れており、活発な雰囲気がある。スタッフの作成する月間紙「クララ通信」は秀逸で、統一された、暖かく優しい色調で、家族から「生活の様子がそのまま伝わってくる」と好評である。オープンなキッチンで作る食事は全員の楽しみとなっている。利用者の尊厳の尊重という、強い信念で運営されており、すべての面でオーナー(管理者)のリーダーシップが際立っている。運営推進会議の家族の言葉に、ホームがまさに利用者の家になっている様子がうかがえ、13年という時間がなじみの場所そのものを変えていっているようだ。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権を尊重すること、持っておられる能力を活かすことを指導され、日々そのように接するように心掛けている。	利用者の尊厳の尊重を旨とした理念を掲げ実践に繋げている。昼食時のリビングでの利用者の屈託のない、明るく穏やかな表情に、実践の結果としての日常生活の様子が垣間見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や避難訓練等で交流は出来ている。	事業所は自治会に加入し、作業やイベントにも参加することで地域に受け入れられている。散歩時の住民との会話など、13年を経てホームと地域の融和が着実に進展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として地域に発信することは無かった。管理者に個人的に相談に来られる地域の方がおり、相談を受けたことはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話題になったことはその後スタッフへの指導へと繋がっている。	運営推進会議は年6回開催している。家族の参加が主体的で、ホームの現状の理解や、具体的な相談などの機会となっており、オーナー(管理者)にとっても意義のある大切な時間となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会や、運営推進会議に來られた時など実情を市の伝え、担当者として協力関係を築くよう心掛けている。	運営推進会議には市の介護支援課の担当者や地域包括支援センターが継続して出席しており、ホームの状況をよく知っていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化のための指針に基づき、定期的な適正化委員会を開催して、正しい理解を共有し適正さを分析するよう努めている。	本館・式番館合同で適正化委員会を立ち上げ、事例検討など振り返りの機会を持って取り組んでいる。特に虐待については入浴時など細心の注意を払って見守りを行い、記録に残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の身体チェックや会話等から虐待を見過ごしていないかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は勉強会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約については、事前の説明や締結時にも慎重に行っている。ご家族の質問があれば迅速に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や個々の面談においてもご要望をお聞きし、反映するように努めている。	家族からの、下肢筋力の衰え防止や手芸の充実などの要望に対し、積極的に対応している。玄関や廊下には利用者の作品が所狭しと掲示されており、家族の訪問のインセンティブとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の時間を作り意見を聴きとるよう努めている。	職員からの質問や意見は緊急性を持つものもあり、随時話し合える関係が出来ている。利用者に異常が見られる場合は、管理者を中心に都度検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算Ⅰの要件である賃金規定をその通り行い続けることによりやりがいや向上心を抱けるように整えたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を確保したいと思う。社内ではミーティングや都度現場でケアの指導・教員を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まで機会が持っていない。是非行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を構築するため、まめな声掛けや会話を行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族と面談を通して信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人に入居前にお会いし、見極めるよう努めている。体験入居も可能。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に暮らしている」と思ってもらえるように努めている。「帰る」という言葉は使わないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご様子を報告しながら、ご家族でないと行えない分野においては協力をお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。利用者様からの年賀状や暑中お見舞いも出して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望や馴染みの方々の要望に合わせて支援に努めている。	開設以来13年、利用者はホームを自分の家と認識し、職員との間には深い馴染みの関係ができています。趣味の時間に書いた年賀状や暑中見舞いを家族や友人に送り、今までの関係も大事に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや散歩などで交流し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもご相談下さいとお伝えし、要望があったご家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向、希望の把握に努めている。困ったり不安な様子が見られた時には声を懸けるようにしている。	日々の関わりの中で、会話を大事にし、その中で、「何ができ、何がしたいか」思いや意向の把握に努めている。一人ひとりの個性や状況を理解し寄り添う支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者はそれらを把握し、支援に必要な情報があればスタッフへ提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察して、スタッフ間で報告し合ったりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからのモニタリングの結果や支援場面での観察などその人らしい暮らしが可能となるよう計画を作成している。	センター方式を基に利用者の生活歴、心身状況の把握を行い、毎日の気づきがケアシートに記録されている。担当者会議でカンファレンス、定期的なモニタリングが行われ、理念に沿った生活面の活動を重視した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせるよう努めている。体力の十分な方への長距離の散歩。買い物など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニに行く、足を延ばして自然の多い散歩コースや水辺の公園に行くなどで、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は協力医療機関があるが、ご家族や本人の希望の病院に行っていたこともある。	協力病院による往診、入居前からのかかりつけ医への継続受診を選択できる。緊急時や急変時は24時間対応の協力体制がある。訪問歯科診療、口腔ケアの指導が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師がいない。往診の医師や訪問看護を利用される方がおられた時には、情報や気づきを伝えるように努めている。バイタルチェックも1日4回行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そうするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルを作成した方もいます。基本的にはご家族の意向と事業所ができることについて事前に話し合いながら対応するようにしている。	入居時、ホームの方針の同意を得ている。リビングウィルを作成した方もあり、早めの家族・主治医・関係者を交えた話し合いを重ねている。アンケートでは最後までこのホームで過ごさせたい、との家族の声があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者からの指導により初期対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも個人的に声をかけ年2回の夜間を想定した火災避難訓練を行っている。非常災害対策計画もあり、災害時の避難場所へのルートなど確認している。	消防署指導の下で、年2回式番館と合同で火災避難訓練を行っている。車椅子の方や歩行困難の方には、地域の消防団の協力があり、安全、安心な避難を経験している。非常時の備蓄品は食料、生活用品共充実している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け言葉遣いは一番重要と指導されており、そう努めている。	いつも有難うの気持ちを声に出し、利用者を尊重した言葉遣いに留意している。親しい中にも馴れ合いの関係にならないよう、声掛けの際の目線や態度にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身の意思を聞き出すよう声を掛けたり会話するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクの時間は大体決まっているが、それ以外の時間は利用者様それぞれ好きなこと、新聞や雑誌を読んだり、話が合う方と談話などして過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、整髪、髭剃りなどはもちろん身だしなみを整えるお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手で行える皮むきやおしぼりの準備、食器洗いや食器拭きをできる方に手伝ってもらい、食事と一緒に頂いている。	職員手作りの食事は、栄養バランスの良い献立で提供されている。利用者も下さりえや後片付けを手伝い、みんなで楽しむ食卓となっている。嚥下体操、口腔ケアで、いつまでも自分の口で食べる努力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表により、一日の水分が十分摂れるようにし、食事メニューを記録しながら栄養のバランスの良い食事を作るよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに心掛け利用者様それぞれに応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけてそれぞれの利用者様の排泄パターンを知り、トイレ誘導や声掛けをし、排泄の失敗に至らないよう支援している。	排泄チェック表に水分量・排泄時間を記録し、排泄パターンを把握し、日中は全員トイレで排泄ができています。利用者の自尊心とプライバシーに配慮した支援が行われている。歩くことで下肢筋力を維持し自力排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりがちな利用者様への働きかけを工夫している。体を動かすこと、体操、歩行等をすすめ飲み物等も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっているが、会話をしながらなるべくゆっくりと入浴を楽しんでいただけるように心がけている。	週2回の入浴を実施している。ベテラン職員が入浴前のバイタルチェック、体重測定、身体状況の観察を行い、打ち身や皮膚の異常など記録し、主治医の指示で塗り薬など手当てをしている。利用者はゆったりと会話をしながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごしたり特変のない限り体を動かされているので、夜間は皆様よく眠って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いのないよう薬の準備のダブルチェックと、服薬時の誤薬や落薬の無いように細心の注意を払い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に役割を持って頂きお手伝いをお願いしている。それぞれの方の気分転換の仕方を把握し対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩も、体力や希望に合わせてコースを決めている。場合によってはコンビニなど車を使って買い物に出たりもしている。	天気の良い日は身体状態により、遠方組、中距離、近場組に別れ、散歩することを日課としている。身近な自然を楽しんだり、公園に立ち寄り、ご近所の方と話を交わしたり、果物や野菜など頂き物もある。時には職員と個々に車で買い物に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則事務所管理だが、少額のお金を所持している方もおり、散歩の際に好みの物を買えるように支援も可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族から希望があった時には支援している。年賀状・暑中お見舞いは必ず書いて出すように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの清潔保持や温度・湿度管理を行い、季節を感じる壁飾りや行事を採り入れている。	オゾン噴霧設備と朝一番の空気の入替え、利用者と一緒にモップ掛けなど衛生環境の保持が継続して行われている。日中は自室を離れリビングに集まり、体操やリクリエーション、制作活動が活発に行われ、皆さんで明るく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに気の合った方々で過ごせるように席を決め、またレクリエーションの時は輪になって座り楽しんでおられる。テーブルの他にソファや畳コーナーに腰掛けて過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時できる限りなじみのある家具を持ってきて頂くようお願いしている。	利用者の個性が見える居室となっている。使い慣れたタンスや好きな本、写真などが持ち込まれている。毎朝窓を開け、ベッドメイキングをし、自分の部屋をきれいにし、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには目印がついており、迷わないよう工夫している。手すりもあるため歩行が不安定な場合でもできる限り活用してご自分の力で歩行して頂いている。		